

平成22年度山都町立国民健康保険蘇陽病院改革プランの点検・評価について公表します。

本年度の病院事業は、6月より経営に大きな影響を及ぼす一般病棟の看護配置基準を13対1から10対1へと見直しを行いました・また、リハビリテーション科において理学療法士を1名増員し、4月から呼吸器リハビリテーション料(I)、5月から脳血管疾患等リハビリテーション料(II)・運動器リハビリテーション料(I)と一つ上の基準へ見直しを行いました。

また、新病院着工に向けて、基本設計、実施設計書を作成しました。

収入では、入院収入において入院患者数が延べ患者数において580名減少しましたが、看護配置基準・リハビリテーション科の基準見直し等によりひとりあたりの単価が2,731円の増となり32,528千円の増収となりました。外来においては、医師不足が影響して医科・歯科合わせて820名減少し、3416千円の減少となりました。

支出では、前年度より修繕費△1,974千円、委託費△3,986千円、賃借料△3,669千円と削減することが出来ました。

医業収益は762,451千円(対前年比4.35%増)、医業費用772,796千円(対前年度比3.26%減)、総収益890,902千円(対前年度比3.13%増)、総費用814,374千円(対前年度比2.28%減)となり、差引き76,528千円の黒字決算となりました。

今後もへき地医療拠点病院として、二次医療施設として良質な医療を提供すると共に更なる健全経営に向け努力します。

1. 収支状況

	平成21年度			平成22年度			点 検	評 価	
	目標値	実績	達成率	目標値	実績	達成率			
経常収支比率	100.1%	103.7%	103.6%	102.0%	109.6%	107.5%	(経常収益/経常費用) ×100 病院が安定した経営を行うための指標であり、総収益と総費用との割合で事業活動の能力を表す指標。	この比率は100%以上であることが望ましく、平成22年度の達成率は107.5%で目標を7.6%上回っている。	平成22年度は一般病棟看護配置基準13対1から10対1へ基準引き上げ、呼吸器リハビリテーション料(I)、脳血管疾患等リハビリテーション料(II)・運動器リハビリテーション料(I)の取得での増収が要因となっております。また費用の面では前年度より修繕費、委託費、賃借料の経費節減に努めることができました。
医業収支比率	86.9%	91.3%	105.1%	90.3%	98.7%	109.3%	(医業収益/医業費用) ×100 医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標であり、医業活動の能力を表す指標。	この指標は経常収支比率同様100%以上であることが望ましく、平成22年度は8.4%目標値を上回っている。	前年度末、適正な人員管理を実施することによる人件費の大幅削減が要因となっております。
病床利用率	87.7%	83.0%	94.6%	89.5%	80.2%	89.6%	(年延入院患者数/年延病床数) ×100 病院の施設が有効に活用されているかどうかを判断する指標。	この指標は高い方が望ましく、平成22年度の達成率は80.2%と平成21年度と比較し2.8%減少となっている。	平均在院日数の短縮(平成21年度24.6→平成22年度24.2)によりベッドの回転率が上がった事に伴う空病床の発生にて、目標値を下回ってしまいました。病床利用率は収益にかなりの影響を与えるため今後一層利用率の向上に努める事が必要です。
職員給与費比率	75.6%	75.0%	99.2%	71.6%	70.5%	98.5%	(職員給与費/医業収益) ×100 病院において職員給与費は最も大きなウェイトを占める医業費用であり、医業収益と人件費の割合で職員数が適正かを判断する指標	この指標は低い方が望ましく、平成22年度の達成率は1.1%下がり、前年度対比では6%ダウン。	前年度の4名減もあり、平成22年度の職員増減はありませんでしたが、類似病院平均64.6%に比べると今後更に職員給与費をいかに適切にするかを確認していく必要があります。
職員数	69人	65人	-4人	68人	65人	-3人			

2. 再編・ネットワーク状況

項 目	点 検	評 価
時 期：平成25年度	※平成25年度までに結論を取り纏めることとしています。	地域医療機関との連携を推進するとともに、在宅医療を強化し、医療・介護・福祉・保健との連携を確保し、切れ目のない地域医療を志向する。

3. 経営形態の見直しの状況

項 目	点 検	評 価
時 期：平成25年度		※経営形態について検討を継続する。